

令和2年度（2020年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		病床機能分化促進事業
事業の実施主体		社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院
対象圏域		湖南圏域
事業期間		令和2年4月1日～令和3年3月31日
事業の分類	(大)	I 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備 等
	(小)	5 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備
事業の概要（積算）		《事業概要》 地域で不足すると見込まれる回復期機能の充実を図るため、急性期病床55床のうち53床を回復期病床へ転換するための施設改修事業を実施する。 整備面積 1,268㎡（病院本館 3階）
		《積算》 転換病床数 53床 施設改修費 160,000千円
現状と課題、事業の目的		<p>将来の医療需要を見ると、患者増加率が高齢化に伴い高くなる脳血管疾患、大腿骨頸部骨折などの急性期後の対応に向けた対策が求められている。ADLの向上や在宅復帰を目的とした回復期機能を整備することで医療機能分化を促進する。</p> <p>急性期病棟55床を、回復期病棟の仕様に改修するために、 1) お風呂の数（特浴、個室浴槽、シャワー、洗髪） 2) 車椅子用トイレの数（少なくとも6個、追加で7個） 3) 食堂の位置 4) ナースステーションの縮小と休憩室の充実 5) 病室のスペースとアメニティの工夫 6) カンファレンスルーム 7) 導線の工夫 などの課題がある。</p> <p>上記の課題を解決することで、回復期病棟を利用される患者さんが安全安心に療養できる環境を整え、在宅復帰を支援することを目的に事業を推進する。</p>
地域医療構想との関係性		滋賀県地域医療構想では、湖南圏域の回復期病床は、2015年の病床機能報告が272床であるのに対し、2025年時点では892床が必要とされている。急性期病床から回復期病床への転換を図ることにより、急性期を終えた患者の受入れや在宅医療等への円滑な流れをつくることで、増加する在宅医療・介護ニーズに対応できる地域包括ケアシステムの構築に寄与できる。
事業の成果・効果		湖南圏域内は急性期機能の病床が多いという特徴がある中で、回復機能の充実を図ることにより、医療機関の役割分担を明確にし、地域の病床機能の連携を促進することができる。
達成目標	目標とする事項	回復期病床数
	現在値	0
	目標数値	100